

令和８年度 第６回生坂村ゼロカーボン推進プロジェクト会議録

日 時：令和８年９月２４日（木）１３時３０分

場 所：村民会館講堂

村長より

- ・脱炭素先行地域づくり事業については、シルバーウィークやゴールデンウィークの間も関係者の皆様にご尽力いただき、順調に推移している。この後事務局から詳しく説明があるが、令和８年度もそれぞれの事業がほぼ計画どおりに進んでいることに、感謝申し上げる。
- ・一方で、環境省や資源エネルギー庁、中部電力など、関係機関との調整もあり、この中で登録特定送配電事業はようやく登録完了したが、引き続き中部電力との調整が必要となっている。
- ・マイクログリッドについては、１１月頃から順次切り替え工事を進める見込みとなっており、作業内容等については事務局から説明させていただく。また、タイトランス盤という、あまり聞き慣れない設備の設置に係る補正予算が９月議会で可決され、これを設置することで、マイクログリッド内で発電し、蓄電池に蓄えても余る電力を、逆潮流によって売電できるようになる予定である。
- ・このように、各事業は着実に進んでおり、マイクログリッド内で発電した電力のうち、余剰電力を売電できることは、株式会社いくさかてらすの経営にもプラスとなるので、できる限り早く調整を進めていただきたいと思っている。
- ・今年度のほかの事業についても、特に株式会社いくさかてらすによる一般住宅への太陽光パネルと蓄電池の設置をさらに進めていく必要がある。
- ・本日の会議で十分に検討・協議を行い、事業を進めてまいりたいと考えているので、引き続き皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

【協議事項】

○令和８年度マイクログリッド事業について

以下の内容について説明。

- ・上生坂地区では、地域で発電した電力を地域内で活用するため、公共施設な

どを専用の電線「自営線」でつなぐマイクログリッドの整備を進めており、草尾地区の工事と合わせ、令和9年3月末の竣工を予定している。

- ・上生坂地区の各施設では、11月頃から順次、現在の電力供給から自営線への切り替え作業を進める予定。中部電力パワーグリッドによる引込線やメーター類の撤去後、自営線の接続と新たなメーター類の設置を行う。
- ・切り替え作業に伴い、高圧で受電する施設は5～6時間、低圧で受電する施設は1～2時間程度の停電を見込んでいる。施設によっては2回の停電が必要となるため、施設の運営に配慮しながら、関係者と日程を調整していく。
- ・切り替えは、高齢者センターや中学校、村役場、道の駅いくさかの郷、バスセンター、やまなみ荘など、施設ごとの接続関係に応じて進め、保育園や村民会館など低圧の施設についても、関連する施設の切り替え後に順次対応する予定。

○事務局サポート業務について

松本山雅より、「龍と子」ウェブサイトの構成見直しについて以下のとおり説明があった。

- ・村政懇談会などで寄せられた「実際に利用した方の経験談を知りたい」「専門用語を分かりやすくしてほしい」「文字を大きくし、写真を増やしてほしい」といった声を踏まえ、広報誌「龍と子」とウェブサイトの構成見直しを行う。
- ・冊子は、毎号のテーマを絞り、設備や補助制度を利用した村民の皆さんの体験談を中心に、導入のきっかけや暮らしの変化を紹介する。補助制度についても、対象となる設備、補助額、申請方法などを分かりやすくお伝えする。
- ・文字の大きさや用語の説明を工夫するとともに、事業の進捗や相談先などを毎号同じ場所に掲載し、必要な情報を見つけやすい紙面を目指す。進捗状況は、同じ基準で継続してお知らせしていく方針。
- ・ウェブサイトでは、補助制度や支援情報、脱炭素事業の全体像、よくある質問、相談窓口などを整理する。今秋のリニューアルを予定しており、冊子も次号から順次、新しい紙面へ切り替えていく予定。

○令和8年度事業進捗状況について

以下の内容について説明。

- ・省エネ機器と太陽熱利用設備の導入補助は受付を終了したが、木質バイオマ

- ストーブの導入補助と住宅の断熱改修補助は、引き続き受け付けている。
- ・ 公共施設の省エネ改修では、小・中学校は 12 月末の完了を予定している。B & G 海洋センターのエアコン整備は 9 月に完了し、児童館と歯科診療所は発注に向けた準備を進めている。
 - ・ 木質バイオマスの利用に向けた材の置き場は、9 月末の竣工を予定している。また、公共施設に導入するペレットストーブについては、設置場所を選定している。
 - ・ 村営 ZEH 住宅の建築は、11 月末の竣工を予定している。
 - ・ EV 公用車 2 台は 9 月 18 日に納車され、電気自動車に蓄えた電気を建物でも利用できる V2H 設備は、発注に向けた準備を進めている。
 - ・ 生坂ダムの放流水を活用する小水力発電所の建設は、工事の進捗中。
 - ・ 電力の供給状況などに応じて使用量を調整する「デマンドレスポンス」の取り組みでは、施設などへの機器設置に向け、準備を進めている。
 - ・ 住宅や施設の屋根などに太陽光発電設備を設置し、その場所で電気を利用するオンサイト PPA 事業では、民家 17 軒、民間施設 4 か所、公共施設 2 か所について発注済みで、今後も追加発注を予定している。
 - ・ 離れた場所に設置した太陽光発電設備から電気を供給するオフサイト PPA 事業では、草尾の上野地区と昭津の下田地区で、11 月からの工事着手を予定している。
 - ・ 8 月 8 日には、道の駅いくさかの郷で住宅の断熱改修を紹介する PR ブースを出店した。

○その他

- ・ 10 月 17 日の赤とんぼフェスティバルでは、脱炭素の普及啓発ブースを設け、木質バイオマスストーブの展示や導入補助金の相談などを行う予定。実物を見ながら、暮らしに取り入れるきっかけとしていただければと考えている。

【意見・質問】

- ・ 自営線に切り替えた後、自営線の断線や設備の故障などで停電した場合、中部電力側から電力を供給して補うことはできるのか。故障箇所を切り離して他の施設への影響を抑えるだけでなく、停電した施設への対応や電力供給を補う仕組みの有無についても説明することが、利用者の安心につながると考える。

→自営線への切り替え後は、従来の中部電力側の配電線から直接供給を受ける

接続を切り離すため、中部電力側から電力を受けて補うことはできない。停電の影響をできる限り抑えるため、分岐盤を設け、やまなみ荘、役場、道の駅などへの系統を分け、事故や故障が発生した際には、該当する系統を切り離し、他の系統への影響を抑えながら修理できる構成としている。なお、マイクログリッドの接続対象は公共施設や一部の民間施設であり、一般住宅は対象としていない。一般住宅では、個別の PPA 事業で導入する太陽光発電設備と蓄電池を停電時に活用していただく仕組み。マイクログリッドは、中部電力側からの電力供給が止まった場合にも、区域内の再生可能エネルギーを活用し、主要な公共施設などの行政サービスを継続することを目的としている。

・生坂ダムに流れ着き、ダムサイトに引き上げられている流木を、やまなみ荘のバイオマス燃料として活用できないか。

→今回の大量の流木は、8 月 8 日の土石流災害に伴って流れ着いたもので、水鳥公園付近まで埋まる状況となった。生坂ダムには広い流域からごみなどが流れ着くが、これほど大量の流木が発生することはまれであり、流木の処理は平林建設が行っている。バイオマス燃料については、村内の木材を積極的に活用したいと考えており、関連施設は 9 月末に竣工予定で、その後産業廃棄物を扱う施設として保健所への申請手続きを行うと聞いている。手続きには 2 か月程度かかる見込みとのことで、村内産の木材を早期に活用できるよう、速やかな対応を求めている。